

よきことを、よきひとへ。
被災地復興に取り組む人のための業界新聞
<http://www.rise-tohoku.jp/>

発行所 NPO法人 HUG
〒151-0053 東京都渋谷区代々木 2-10-9-8F
<http://www.h-u-g.jp> e-mail: info@h-u-g.jp

東北復興新聞

無料

第14号

月2回 発行

創刊 2012年(平成24年)1月16日月曜日

2012年(平成24年)8月20日月曜日

仙台七夕祭り

仙台の夏の風物詩になつてゐる「仙台七夕祭り」が8月6日から8日、仙台市で開催された。豪華絢爛な笛飾りは一般市民が毎年新たに作成することでも有名で、今年の見物客は2百万人にのぼつた。

中でも注目を集めたのが、仙台空港に飾られた約4千枚の円状の短冊だ。子どもたちが自

身の夢を描いたもので、被災地のみならず、関東や九州、また国外からも集められた。

短冊をつくるワーク

ショッピングを各地で開催したのが、アーティストのミヤザキケンスケさん。短冊は東京や九州、またシンガポールやケニア

全国から復興を願う短冊

からも集められた。「短冊を描いているときは、みなが被災地に思いを寄せる。より多くの方に参加頂くことで、震災を風化させない効果もあるのでは」とミヤザキさんは語る。

南三陸福幸きりこ祭」を開催する。地域を支えてきた商店や企業の物語を神棚飾りである「きりこ」で表現・展示することで、地域の記憶や文脈を後世に伝えたいという。アートや文化を復興に役立てようとする動きが今、各地で進んでいる。

放射線業務従事経験者を除き、全域で5ミリシーベルト未満となつた。また平均の年間被ばく線量の上限との割合も、累計で58.6%となつた。

県は今回の結果をふまえ、「放射線による健康影響があることは考えにくい」と評価した。同調査は7月末時点での年間被ばく線量の上限で46万9千を越える回答を得ているが、分析結果はごく一部にとどまつてゐる。

	生活インフラ (上下水道、道路など)	産業インフラ (農地・農業用地など)	公共施設 (教育、医療、役場施設など)	除染	災害廃棄物処理
南相馬市	2012年度中に完了	2013年度中に営農再開を希望する農地については速やかに復旧	2013年度中に建物修繕を完了	実施中	仮置場の整備、搬入を調整中
田村市	道路は2012年度中に完了、上下水道等は大きな被害なし	農業用水および農道の工事を2012年度中に完了	2012年度中に修繕は完了、除染を行う	先行除染は実施済み	2012年度中の調査で災害廃棄物の発生状況を把握
川内村	概ね完了	2012年度中に工事	2012年度中に復旧工事	先行除染は完了、住宅は一部完了、2014年度までに仮置場3か所を設置	2012年度中の調査で災害廃棄物の発生状況を把握
広野町	2012年度中に下水道復旧工事を完了	2013年度中に工事	復旧工事中または完了し、除染済み、概ね再開準備中	計画は策定済み	国の代行について調整中

公表された工程表では、区域見直しにより避難指示解除準備区域などが設定された南相馬市、田村市、川内村、広野町の4市町村について、今後3年のインフラ復旧の見通しが事業ごとにまとめられた。対象となるのは、国、県、市町村、事業組合の事業。事業者の枠組みを越えて全体の

南相馬市については、応急的な対応が求められる道路、上下水道、区役所などの整備を今年度中に完了

広野町においては、道路や上下水道がすでに復旧済み。今後は、河川対策を含めた津波被災地の整備にあたる。

今回発表された工程表により、市町村ごとに必要とされる対策の差異が際立つたが、どの市町村においても、帰還住民の生息基盤を保障することが最大の課題だ。また各事業の早期実施とともに、イ

復興庁は7日、原発事故の影響で避難指示解除準備区域などに設定された福島県内の4市町村における公共インフラ復旧の工程表をまとめた。帰還を目指す区域内の住民や関係機関に、今後3年の復旧の見通しを共有することがねらい。

田村市は電気や上下水道に震災当時から大きな被害はなかつたとして、主に道路復旧を今年度中をめどに終えるとして実施される予定。

インフラ復旧工程表を公表

度中に終える見込み。多く

の事業は、今年4月に

警戒区域が解除され避

難指示解除準備区域に

再編された小高区におい

て実施される予定。

田村市は電気や上下

水道に震災当時から大

きな被害はなかつたとし

て、主に道路復旧を今年

度中をめどに終えるとし

た。

すでに3月26日に行政

機能が再開している川内

村は、住民の帰還促進の

ために今後の最優先課題

を除染とした。さらに道

路の復旧、生活環境お

よび商業・観光施設な

どの整備に取り組む予定

だ。

広野町においては、道

路や上下水道がすでに復

旧済み。今後は、河川

対策を含めた津波被災

地の整備にあたる。

今回発表された工程

表により、市町村ごとに

対策を含めた津波被災

地の整備にあたる。

のかもしない。「南三陸」が個性を維持するには、脈々と受け継がれてきた地域の血を形にする作業が必要な世界的な知名度を得た町が個性をもつて生き残る。震災前の人口はわずか1万7千人。小さいながらも世界的な知名度を得た町が個性をもつて生き残る。



フィールドワークの様子。町を歩きながら、野点の実施場所を検討している。



取材後記 経済指標には表れないアートの価値

復興の現場で、アートはどんな力を発揮するのか。アートイベントの主催者や文化事業を推進する団体など多くの方に、質問させて頂いた。

瀬戸内海に浮かぶ直島のベネッセアートサイト、新潟県の越後妻有アートリエンナーレは、アートが地域おこしや観光客誘致に寄与した好例だ。東北にもこのようなケースがあるのでは、と取材を繰り返したが、予想に反し取材をしたすべての活動は観光や雇用などの経済的指標ではなく、むしろ「心を刺激する何か」という曖昧模糊としたものに期待を寄せていた。

地域活性化におけるアートの可能性を調査した参議院第三特別調査室の小林美津江氏は、アートの経済的な価値を大いに認めつつ、「文化芸術は地域活性化のための施策とは無関係に、多様な価値観を持ちそれ自体が目的となる」としている。「文化芸術により地域のアイデンティティや魅力を確立し、情報発信することで、住民が誇りを持ち、人々からここに住みたいと選ばれるようなまちづくりに繋げていけるといふのだ。

アートというと、美術館のガラスケースの中にあるもの、身なりを整えて鑑賞に行くようなものを思い浮かべがちだったが、本来はもっと身近に、生活に寄り添つてあるものなのではないかと気づいた。例えば一枚の大漁旗、船主の無事を祈り豊漁を願う気持ちが、縁起物の意匠や鮮やかな色で表現されている。これも立派なアートだろう。

アートは生きることの記録であり、制作、鑑賞は使者と生き様を分かち合う行為ではないか。そして、アートが生み出す「生への動機」や「共感」は、被災地内外の多くの人が協働して取り組むべき復興の長い道のりに、不可欠なもの一つなのではないだろうか。そのように感じた。(齋藤麻紀子、畔柳理恵)

アートイベントの主催者や文化事業を推進する団体など多くの方に、質問させて頂いたが、予想に反し取材をしたすべての活動は観光や雇用などの経済的指標ではなく、むしろ「心を刺激する何か」という曖昧模糊としたものに期待を寄せていた。

地域活性化におけるアートの可能性を調査した参議院第三特別調査室の小林美津江氏は、アートの経済的な価値を大いに認めつつ、「文化芸術は地域活性化のための施策とは無関係に、多様な価値観を持ちそれ自体が目的となる」としている。「文化芸術により地域のアイデンティティや魅力を確立し、情報発信することで、住民が誇りを持ち、人々からここに住みたいと選ばれるようなまちづくりに繋げていけるといふのだ。

アートというと、美術館のガラスケースの中にあるもの、身なりを整えて鑑賞に行くようなものを思い浮かべがちだったが、本来はもっと身近に、生活に寄り添つてあるものなのではないかと気づいた。例えば一枚の大漁旗、船主の無事を祈り豊漁を願う気持ちが、縁起物の意匠や鮮やかな色で表現されている。これも立派なアートだろう。

アートは生きることの記録であり、制作、鑑賞は使者と生き様を分かち合う行為ではないか。そして、アートが生み出す「生への動機」や「共感」は、被災地内外の多くの人が協働して取り組むべき復興の長い道のりに、不可欠なもの一つなのではないだろうか。そのように感じた。(齋藤麻紀子、畔柳理恵)

これもアート! ▶ 心を豊かにするプロジェクト

女川常夜灯 「迎え火プロジェクト」

8月13日に宮城県女川町で実施。震災の記憶を次世代へ繋ぐことを願い、「小さな火を囲み語らう時間」を女川の年中行事とすべく地元住民が発案。美術家の小山田徹「工房」が共に企画した。地盤のかさ上げを前に、各々の自宅跡地に「迎え火」を灯す。

マイタウンマーケット

福島県相馬郡新地町の仮設住宅に「1日限りの小さな町」をつくりあげることで、ふるさとを想う気持ちをカタチにするプロジェクト。大人と子供が思い思いに「町のバース」を表現したお店を出し、それを市場のように並べて「町」を作り出す。

未来を歌に

宮城県南三陸町にある5校の小学生による、歌づくりプロジェクト。子どもたちがメンタルダンスを起こさないよう、震災当時の記憶を歌とし、アートプロジェクトとして、心に沈殿させない効果を狙った。

次町の文脈を次世代に伝える

2010年の活動は、観光地・南三陸町を盛り上げ、発展させるために実施した。今回も町の未来をつくるための活動であることは変わらないが、主催であるENVの文脈を次世代に伝える効果があるので」と語る。

吉川由美さんは「町の文脈」は言語化せずとも伝わる環境があった。しかし津波により「町が丸ごと流出した」といま、住民の多くは町外に避難する一方で、支援者などの町外訪問者が増えており、「新しい文脈」も生まれつつある。

震災前の人口はわずか1万7千人。小さ

ていたケーキ屋には「ケーキとネクタイ」のきりこを製作。加えて、「海と桜並木が見える美しい公園のそばにあった」「南三陸町に商談に来る市場関係者に、料理を振る舞った」など、商店それぞれに流れるストーリーも合わせて掲示する。

仙台では毎年8月に七夕祭りが開催される。伊達政

2010年の活動は、観光地・南三陸町を盛り上げ、発展させるために実施した。今回も町の未来をつくるための活動であることは変わらないが、主催であるENVの文脈を次世代に伝える効果があるので」と語る。

吉川由美さんは「町の文脈」は言語化せずとも伝わる環境があった。しかし津波により「町が丸

ごと流出した」といま、住民の多くは町外に避難する一方で、支援者などの町外訪問者が増えており、「新しい文脈」も

生まれつつある。

震災前の人口はわずか1万7千人。小さ

いながらも

震災から500日が経ち、マスメディアによる報道も大きく減少している。震災は確かに「現実」のものとして統識差がある。このような立場認識の異なる同士をつなげる」のがアーティストミヤザキケンスケさん「タブロジスト」だ。

仙台では毎年8月に七夕祭りが開催される。伊達政

2010年の活動は、観光地・南三陸町を盛り上げ、発展させるために実施した。今回も町の未来をつくるための活動であることは変わらないが、主催であるENVの文脈を次世代に伝える効果があるので」と語る。

吉川由美さんは「町の文脈」は言語化せずとも伝わる環境があった。しかし津波により「町が丸

ごと流出した」といま、住民の多くは町外に避難する一方で、支援者などの町外訪問者が増えており、「新しい文脈」も

生まれつつある。

震災前の人口はわずか1万7千人。小さ

いながらも

震災前の人口はわずか1万7千人。小さ

